

令和4年度

# 豊島区地域ケア推進会議 (全体会議)

令和4年12月15日(木)  
高齢者総合相談センター  
高齢者福祉課

SDGs 未来都市としま



豊島区は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



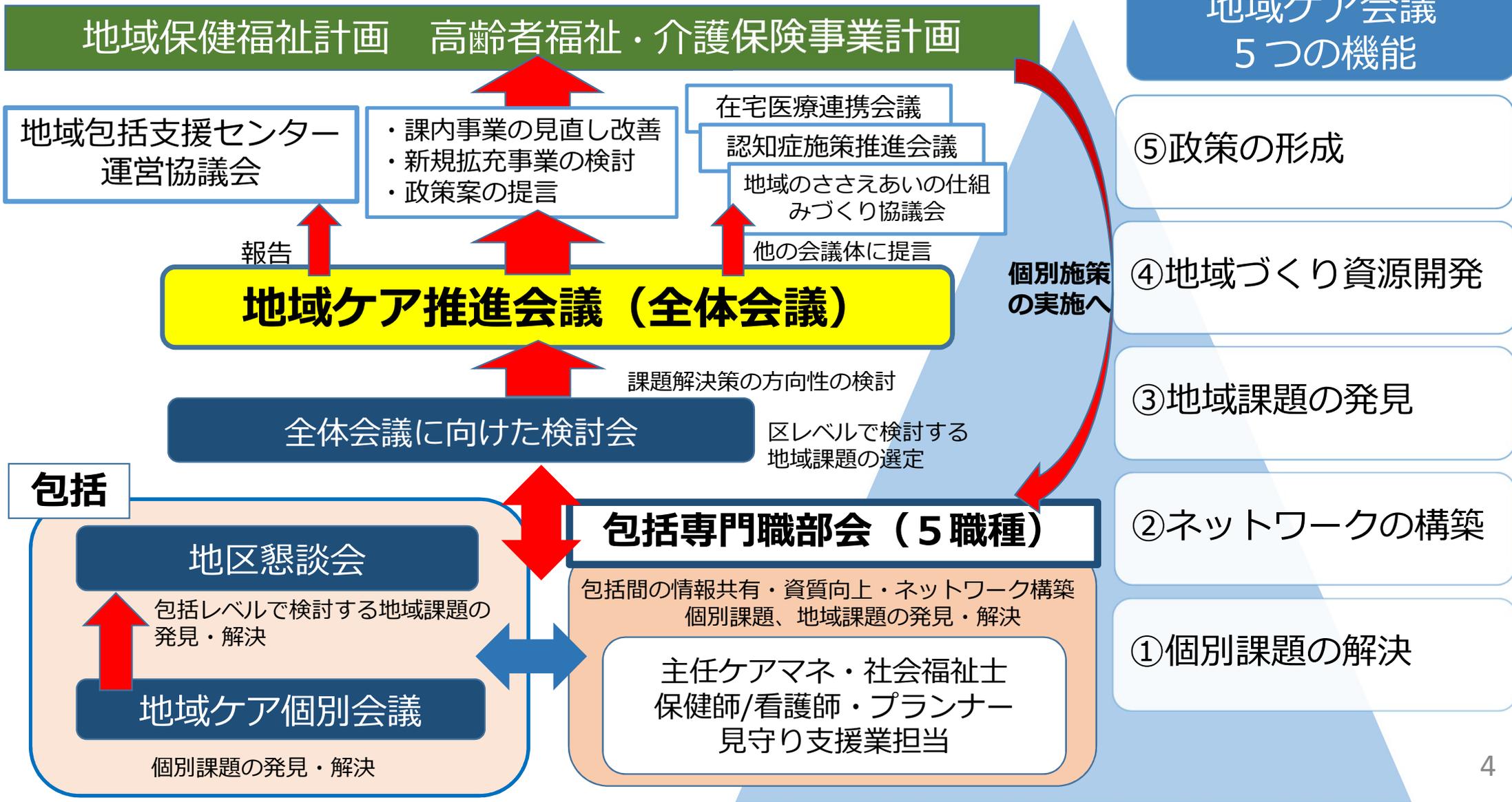
としま区制90周年

# 【 本日の流れ 】

1. **地域ケア推進会議（全体会議）について**  
～今年度取り上げた地域課題の選定過程～
2. **令和4年度全体会議における地域課題の検討・報告**
  - ①入浴の場の充実
  - ②高齢者のごみ出し支援
3. **令和元年度全体会議後の状況報告**  
地域の支え手を活用する仕組みづくり

# **1. 地域ケア推進会議（全体会議）について ～今年度取り上げた地域課題の選定過程～**

# 令和4年度～豊島区地域ケア会議体系図



# 地域課題の選定過程

点数化した「アクション整理シート」等を参考に、各包括や包括専門職部会で全体会議へ挙げたい課題を選出して全体会議に向けた検討会メンバーで、取り組みたい地域課題について協議。

**「入浴の場の充実」**

**「高齢者のごみ出し支援」**に決定

検討を重ねて、令和3年度地域ケア推進会議（全体会議）で報告。

**⇒課題が残ったため今年度も引き続き検討した。**



# 令和4年度 地域ケア推進会議 全体会議に向けた検討会（全7回）



【検討メンバー 及び 協力いただいたみなさま】

- ・各包括より選出された職員
- ・高齢者の生活支援推進員(第1層・第2層生活支援コーディネーター（第2層SC))
- ・豊島区民社会福祉協議会・敬心福社会・豊島区社会福祉事業団・妙法湯

検討回	開催日	ごみ出し支援 検討内容	入浴する場の充実 検討内容
第1回	5月24日	目標設定、対象者像の共有	対象者像と他区の状況について確認
第2回	6月23日	個別支援実施のため方向性の決定	アンケートと聞き取り実施の検討
第3回	7月20日	対象者選定方法の確認	アンケートおよびモデル事業調整の報告
第4回	8月24日	アンケート結果の考察	モデル事業実施に向けての確認①
第5回	9月21日	個別支援のシナリオ検討	モデル事業実施に向けての確認②
第6回	10月19日	全体会議の構成検討	モデル事業実施後の振り返り
第7回	11月16日	全体会議での報告方法の検討	全体会議での報告方法の検討

## **2. 令和4年度全体会議における 地域課題の検討・報告**

**検討会グループ報告**

# 令和4年度 地域ケア推進会議 <全体会議> 「コロナ禍で見た地域課題」

## ① 入浴の場の充実

報告者：大須賀弘子（豊島区医師会包括） 神晶子・渡辺優子（東部包括）

検討メンバー：

佐藤供恵（いけよんの郷包括） 高橋哲也（アトリエ村包括）

小山高正（ふくろうの杜圏域第2層SC）

小池典子（菊かおる園・東部圏域第2層SC）

山崎みち代・榊野光路（中央圏域第2層SC）

## R3年度検討から



### R3年度の検討から見た入浴が困難な要因

- 1) 区内銭湯は10年間で50%減少し、入浴可能な区内デイサービスについても不足している地域がある。 ➔ **入浴資源の地域差**
- 2) 住環境の影響（お風呂がない・使えない）  
➔ 足腰が衰えると遠くの浴場に通えない。 ➔ **移動支援が必要**
- 3) 要支援認定（見守り介助が必要）の高齢者  
➔ デイサービス利用者で入浴している人は2割いるが、経費等から区での受け入れが少なく、他区で多く受け入れている。

### R3年度に残された課題

1. 困っている人は  
どこに  
どのくらい  
いるのか？

2. 困っている人は  
どのような方法で  
課題の解決が  
できるのか？

### R4年度実施へ

3. 今ある資源「**銭湯を活用  
した入浴モデル事業**」を  
検討することに。

# R4年度 情報整理と検討方法

今ある資源  
銭湯の有効活用

資源開発  
(新たな入浴サービスの創出)

資源開発  
(新たな移送サービスの検討)

## 銭湯と利用者の安心な仕組み

### 1 アンケート調査

<対象>

要支援認定者等の入浴ニーズ  
と環境について

### 2 関係者ヒアリング

- ・ 銭湯店主・湯友サロン運動講師
- ・ 銭湯活用のデイサービス事業所

## 入浴サービスの開発の可能性

アンケート調査・ヒアリング

<対象>

- ・ 区内特養・老健施設
- ・ 区内外で利用中の入浴付き  
デイサービス 20件

## 空き時間を活用した送迎サービスの可能性

アンケート調査・ヒアリング

<対象> 同上

## ヒアリングの結果

包括の利用者

→ スライド P13~15

銭湯 (妙法湯)

南部・西部の銭湯が  
廃業になって困って  
いる地域がある。  
13時~15時が良い

銭湯を利用した  
デイサービス  
事業所

銭湯は安全な入浴の  
ための工事が必要で  
あり、借用にあたり  
個別性が高く認可ま  
でも時間がかかる

敬心福祉会の  
ケアスタッフ

モデル事業であれば  
職員が手伝い可能

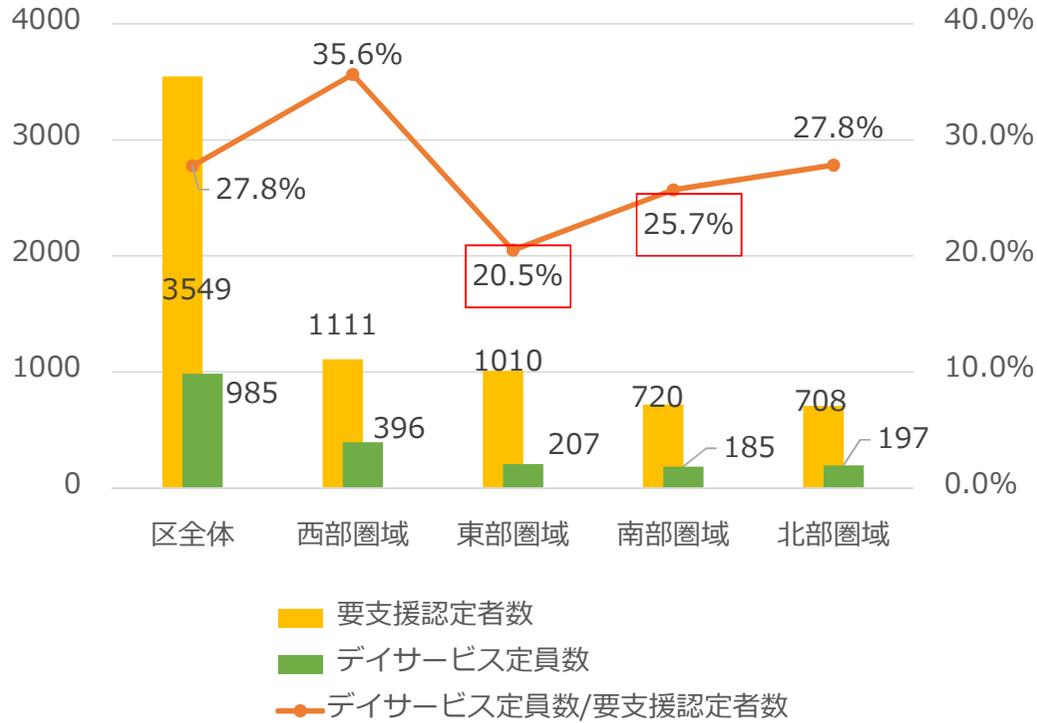
事業所への調査

→ スライド P12

・ 敬心福祉会  
・ 豊島区社会  
福祉事業団  
のデイバス

社会福祉法人の公益  
事業として送迎車の  
活用が検討できる。  
13時から15時が良い

## 入浴に困っている要支援者と地域を調査

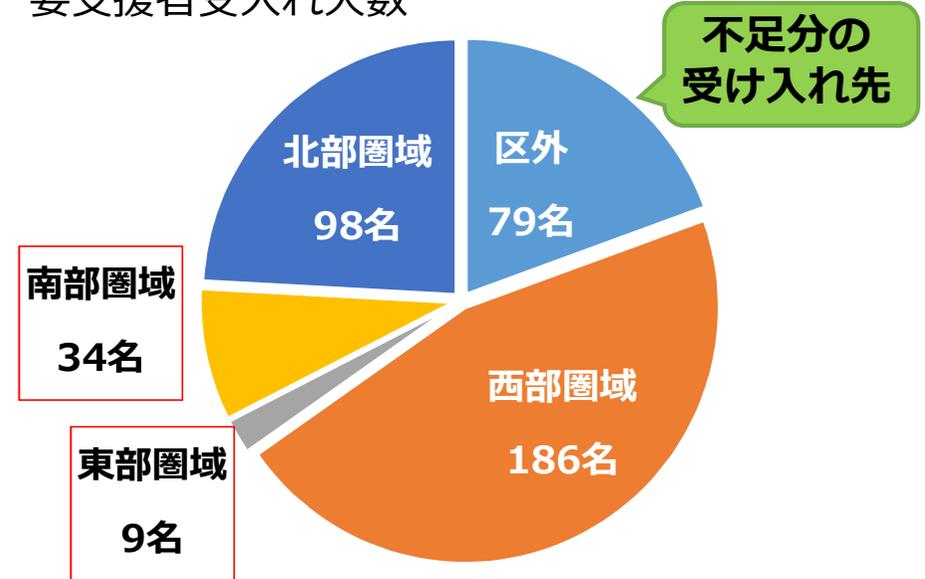


出展：事業状況報告令和4年4月・事業所台帳（令和4年7月現在）データを編集

**圏域別の、デイサービスの定員数と要支援認定者を比べるとサービスの供給量が不足するのは東部と南部であることがわかった。**

## 1 - ①入浴に困っている人はどこにいるのか

要支援者受入れ人数



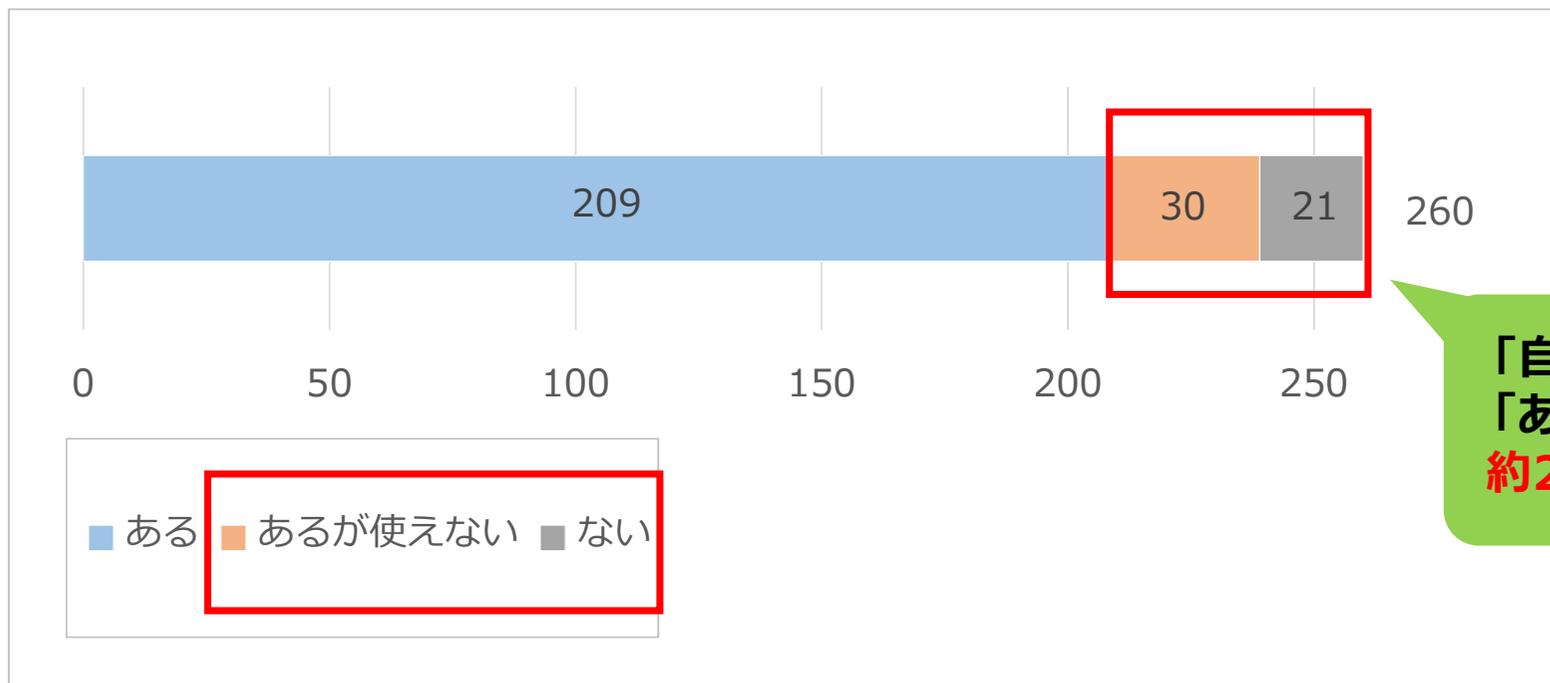
R4.7月 包括が利用しているデイサービス26事業所・通所リハビリ（老健）3事業所にアンケート実施（区外3事業所・区内20事業所から回答）

**東部・南部圏域の事業所が少なく、不足分を区外事業所（北・文京・板橋）で受け入れている。**

## 2-①入浴環境

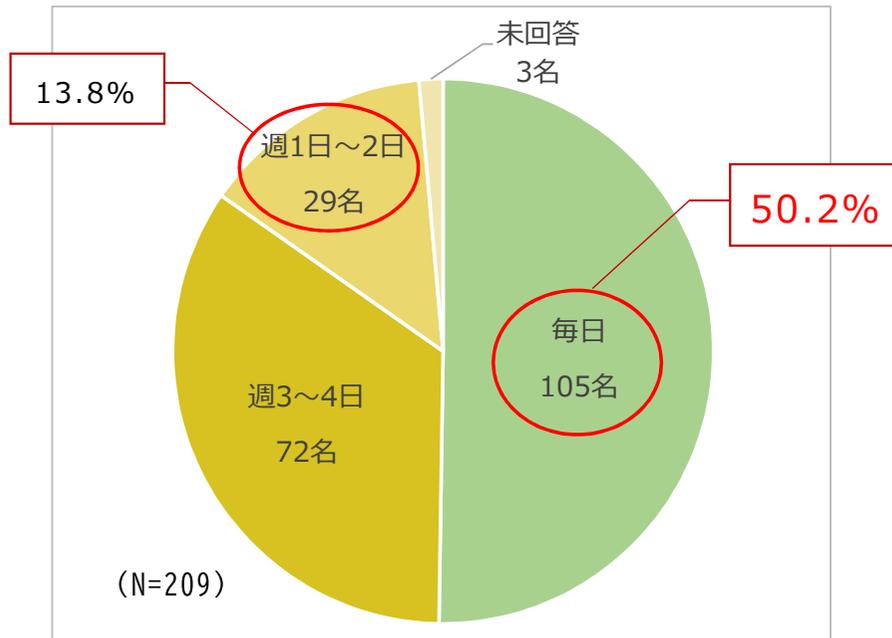
- 入浴状況を調査するため、包括から利用者（プラン作成で関わりのある方）へ令和4年6月～8月にアンケートを実施し、260名分の回答を得た。（アンケート結果：2-①～2-③）

### ■ 自宅の風呂有無

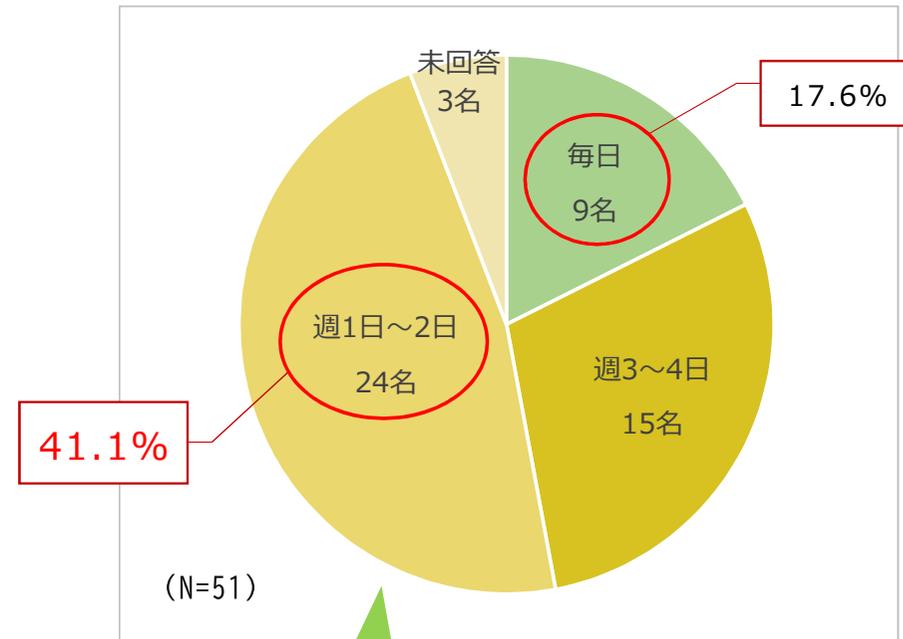


## 2-②入浴頻度

### ■ 入浴頻度（風呂あり）



### ■ 入浴頻度（風呂なし、使えない）



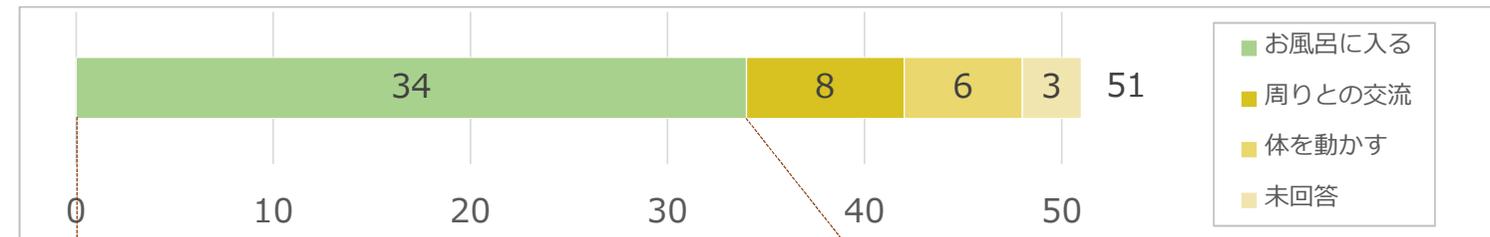
- ・「自宅に風呂のある方」は毎日入浴している方が最も多く、「自宅に風呂が無い」「あるが使えない」方では週1日~2日入浴の方が最も多かった。

**自宅で入浴できないと  
入浴頻度が減少し  
QOL（生活の質）が低下する。**

## 2-③入浴デイを利用したい理由

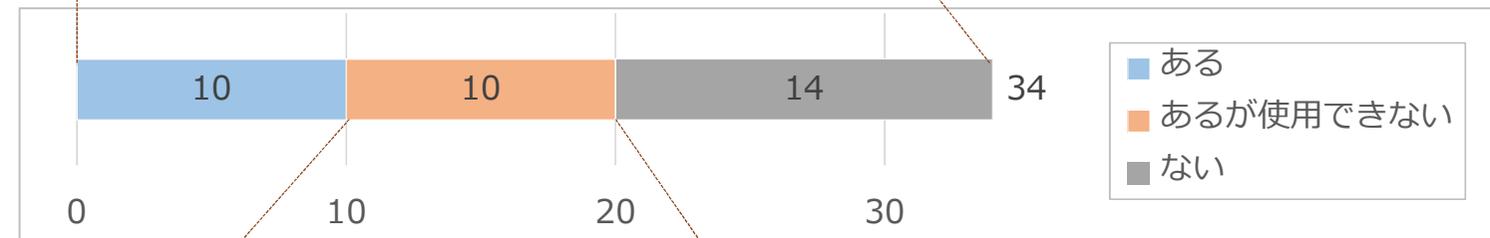
(アンケート続き・対象者51名)

### ■入浴デイ利用目的



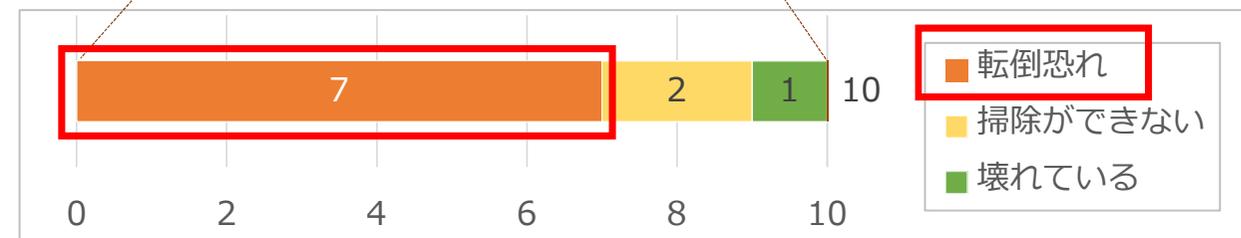
・入浴付きデイサービス利用者51名のうち、お風呂目的の利用者は34名（67%）であった

### ■自宅の風呂有無



・お風呂目的のうち、自宅でお風呂に入れない方（使用できない、風呂なし）は24名（71%）であった

### ■使用できない理由



風呂があっても使用できない理由の7割が「転倒の恐れ」である

## モデル事業に向けた情報整理と検討

1. 入浴で困っている人はどのような人か？
2. どのような方法で課題が解決できるのか？

対象者の状態像	入浴の場	介助の必要性	移動手段	その他の支援
元気高齢者	自宅のお風呂、サウナ、ジム、ホテル、銭湯	不要	自力	Ayamuで入浴の場を情報収集 おたっしゅカード、湯友サロン
<b>検討の対象者</b> フレイル (支援が必要)	○自宅のお風呂は不安 (転倒リスク) ○自宅にお風呂がなく、 銭湯に行きたいが… (移動困難)	見守り程度	必要	荒川区： 銭湯にヘルパー派遣事業
要介護認定者 (介助が必要)	デイサービス	ケアスタッフ	デイの送迎バス	北区、葛飾区： 介護入浴の場を提供

ヒアリング  
結果

- ・営業時間前なら利用可能
- ・手すりや床の滑り止めあり

モデル事業であれば、  
職員が手伝い可能

社会福祉法人の公益事業として送迎車の活用を検討

妙法湯で

敬心福祉会  
ケアスタッフと

デイバス (敬心福祉会、豊島区社会福祉事業団)

の協力のもとモデル事業を実施

# R4年度「移動支援付き銭湯入浴モデル事業」

実施日：  
9月29日（木） 11：30～15：00

対象者の状態像	入浴の場	介助の必要性	移動手段
フレイル（支援が必要）  最近まで銭湯に通っていたが 今は通えていない人	転倒リスクや移動困難に より不足  銭湯（妙法湯）	見守り程度  敬心福祉会の ケアスタッフ	必要  敬心福祉会 豊島区社会福祉事業団 のデイバス

包括センターと第2層SCから  
声掛けして30名を対象者  
(状態像から14名へ絞り込み)

- ・当日は12名が参加
- ・スタッフは24名  
(バス停の立ち合い含む)



(番台で店主と話す利用者)



(バスに乗り込む利用者)



事業ロゴ作成：  
敬心福祉会

## 銭湯モデル事業の利用者

### 【利用者の選定】

- ①入浴資源が少ない包括圏域から30名推薦。  
(ふくろうの杜・豊島区医師会・中央包括)
- ②介助は必要ないが足が弱り銭湯に通うのがつらい・遠くの銭湯に通っている方14名を選定。

(性別) 女性：12名 男性：2名

(認定) なし：3名

要支援1：3名 要支援2：8名

### 今後のご希望について (複数回答)



(洗い場の風景)

(入浴後のひととき)



### 利用者の言葉

- また来たい。ゆっくり入れてよかった。
- 家で1人で行くのは不安。見守りがあって安心だった。
- タクシーを使うので銭湯には週1回しか行かない。  
週2回以上入りたいので送迎があってうれしい。
- 仕事をしており毎日でも入りたい。今は都電で銭湯に行っている。
- 冬場にこのようなサービスがあるとよい。
- 交通費を払ってもいいから送迎してほしい。
- 普段娘の付き添いで近所の銭湯へ行く。今回の方が広くてきれい。
- 家の風呂は壊れていて、危ないから入らないと言われていた。
- 週1回銭湯にバスで通っている。近くに銭湯のあるところに住んでいたため家にお風呂が無い。
- もっとゆっくり湯舟に入りたかった。
- バスで遠くまで来たのが楽しかった。

# モデル事業実施から見たこと

## 事業前の想定

### 対象者の想定

銭湯までの移動支援さえあれば、入浴はひとりできる



### 銭湯側からの要望

- 入浴時の見守りは必須
- 一般利用者と時間は分ける

## 結論として

## 実施結果

### 実際の状態像①

リスクにつながる可能性高い

- 指定場所や時間に到着が困難
- 乗降動作・シートベルト装着が困難
- 入浴施設内での移動が不安定
- 食事時間帯や血圧管理に課題

➡ 介助を伴う見守りが必要

### 実際の状態像②

公共交通機関が利用可能

➡ 活動的な高齢者が含まれる

## 今後に向けて

### 可能性①

安全性が確保された入浴サービス



### 可能性②

自由に乗降できる移送サービス

- 要支援者の入浴で大切なのは「**安全性**と安心感」である。  
要支援者の銭湯活用は**想定以上に見守り・介助が必要である**とわかったが、人的支援の確保が難しい。
- より自立度が高い高齢者は移動支援を活用して、他の活動につながるができる。  
➡ 移動支援は**高齢者の自立度を高め**、入浴サービスは**日常生活における安全性とQOLを高める**。

# 今後に向けて①

## 提案 1 安全性が確保された入浴サービス

お風呂がなく  
銭湯に行きたい  
が移動は困難



転倒リスク



送迎付き



短時間の  
入浴サービス



施設（デイサービス等）



誰に

移動と入浴に困難のある方  
(ひとりで入浴ができない方)

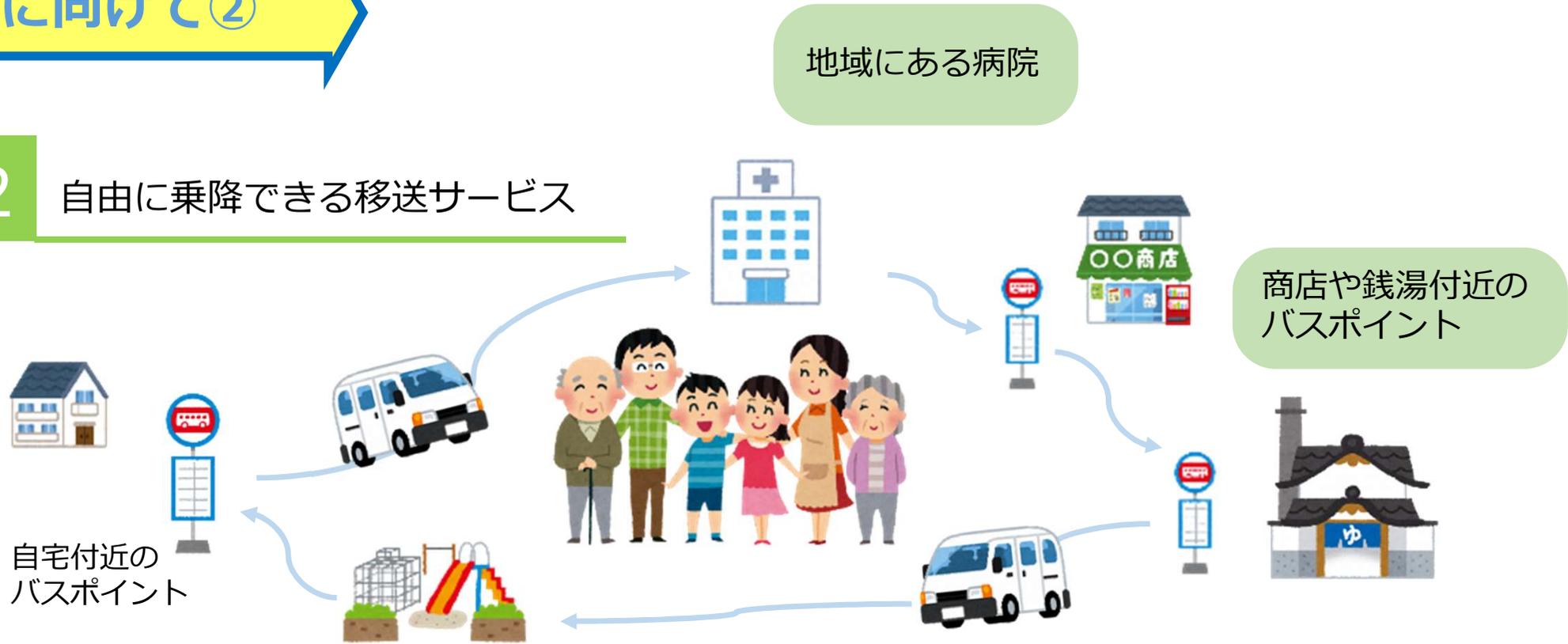
何を

例えば

短時間の入浴サービスを  
送迎付きで提供する

# 今後に向けて②

## 提案 2 自由に乗降できる移送サービス



誰に

移動に困難を抱え始めた高齢者  
(遠くの目的地までは歩けない)

何を

例えば

デイバスの空き時間を利用して、  
決まったルートバスを運行し、  
必要な方に乗ってもらう

## 検討会を踏まえた政策提言

### 提案 1

安全性が確保された入浴サービス

➡ **送迎付き短時間入浴サービスの提供**

- ・入浴で困っている**要支援高齢者対策**  
(SDGs 3, 11に貢献)
- ・増加する**一人暮らし後期高齢者の安全性とQOLの向上**
- ・ニーズに基づいた「**選択できるサービス**」の充実
- ・区内で不足している**介護保険事業所の参入**を促進

### 提案 2

自由に乗降できる移送サービス

➡ **高齢者中心の移動支援  
(ルートバス)**

高齢者の**自立度を高め、地域・社会との交流**を促進

例えば・・・

- ・社会福祉法人の公益事業として車両を活用する
- ・IKEBUS（イケバス）ルート増設
- ・オンデマンド交通 など

自宅のお風呂を利用できる高齢者への対応

高齢者の自立支援の視点を基盤にしながら

- ①リハビリ職員の活用による身体評価や安全な入浴動作の獲得、住環境の調整
- ②家族やヘルパー等による見守り・介助

# 令和4年度 地域ケア推進会議 <全体会議> 「コロナ禍で見た地域課題」

## ② 高齢者のごみ出し支援

報告者：三浦 恵里（中央包括）・加世 亜矢子（西部包括）  
東 三千代（ふくろうの杜圏域 第2層SC）

検討メンバー：

船津 輝茂（菊かおる園包括）・深田 直子（ふくろうの杜包括）

伊藤 万利子（菊かおる園・東部圏域 第2層SC）

岩井 祐樹（西部圏域 第2層SC） ・三枝 誠一（豊島区民社会福祉協議会）

# 1) 昨年度の課題から今年度の取り組み

今年度の取り組み

R3年度に残された課題

①ごみ出しで困っている人は誰か

- ✓ 困っている人はどこにどれだけのいるのか。
- ✓ 本当に困っている人の声をどう拾い上げるか。

②どうすれば解決するのか

- ✓ 人と人とのつながりの拠点を作り、底上げを目指す
- ✓ ご近所力を引き出す

真の困難者は誰か!? 仕組みづくりのヒントを探る

◆ 4月 全包括にごみ出しで困っている事例を募る（18事例回収）

↓  
認知症や精神疾患等、複合的な問題を抱える事例が多く集まる

↓  
地域住民の助け合いで行う仕組みづくりには適さず

◆ 5月 **【対象者像を設定】**  
**「ごみはまとめられるが、玄関から集積場まで出せない人」**

◆ 7~8月 居宅介護支援事業所と配食サービス事業所に現状把握の為  
7~8月 アンケートを実施（添付資料参照）

検討会メンバーが自身の圏域内の民生委員や町会へ、支援を必要とする人や担い手の有無、仕組みづくりについて意見を伺う。

ごみは、**個別性が高い×地域性で異なる**ことから  
地域ごとにできることから進めていった。

## 8月～モデル地区選定・実施

- ✓ 地域活動が活発なサロンに声をかける
- ✓ “第2層生活支援コーディネーター”を中心に取り組む

### 西部圏域

- ✓ モデル事業を進める
- ✓ 地区懇談会でごみ出しをテーマにする



### 菊かおる園圏域

- ✓ 地区懇談会でごみ出しをテーマにする

### ふくろうの杜圏域

- ✓ 地域活動が活発  
(ごみ出し支援事例候補)



# 西部圏域の取り組み

## 昨年地区懇談会からの問題点の共有

- ①ゴミ出しが困難な高齢者がいる  
→介護保険のサービスでカバーしにくい
- ②周囲との関係が希薄、困っている声が届かない、気づきにくい
- ③近隣住民でサポートできるような仕組みがない

## 分かったこと

- 「ごみ出し支援のみ」で、仕組みを考えることは難しい。
- キーパーソンはすでに何役も担っている。
- 役に立ちたいと思っているが、そのきっかけがない人に担い手になってもらいたい。
- **お互いに見守りしあう地域づくり**

## 地域の方とモデル事業を進めたい！

- 地域のキーパーソンの反応は薄かった
  - 担い手も見つからない  
(介護予防リーダー・ボランティアセンター)
  - 支援対象者が見つからない
- 地域で支援するという機が熟していなかった**

## 12月からはモデル事業開始

- ✓ 認知症の高齢者
  - ✓ 燃やすごみ週1回
  - ✓ 支援方法：週1回、支援者2人で行う
  - ✓ 担い手は近隣のボランティア  
(元気あとおし事業を利用)
- “顔と顔のみえる関係づくり”**

# 全体としての取り組み【ふくろう圏域】～ケアマネアンケートより～

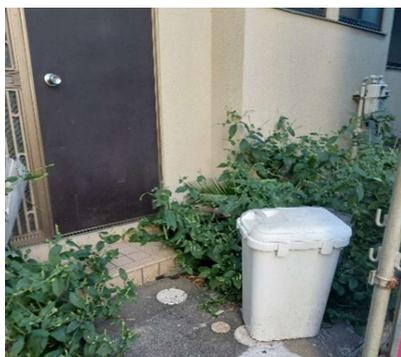
## 困っている人(対象像)

- ◆ 73歳、男性、**要介護1**
- ◆ ネズミがいるようなゴミ屋敷
- ◆ **足が悪く、ごみの運び出しができない**
- ◆ 出前ごみ利用しているが、**資源ごみが溜まっている**
- ◆ ホームヘルパー、週1回利用

## 今回のケースの課題点

- ◆ **出前ごみは不燃ごみ・資源ごみ対象外**のため、新聞紙が捨てられない。
- ◆ **朝8時のごみ出し時間**に間に合うボランティアさんがなかなか見つからない。  
("朝8時問題")

誰かの**"ちょっとした手助け"**で、本人のQOLが上がるのではないかな



出前ごみ用のポリバケツ



本人の居住スペース、  
新聞紙の束で溜まっている

## 2)課題解決に向けたアクション

メンバー

第1,2層SC、包括・見守り支援担当、  
高田介護予防センター

【ふくろう広報検討会】

- 担い手に心あたりはあるか？
- しくみは作れるか

- ✓ 知っている人であれば支援できるが、知らない人の支援は・・・
- ✓ 仕組みをつくることでかえって地域のつながりを壊してしまうのでは？
- ✓ 逆に孤立して支援から漏れる人もいるのでしくみがあったほうがいい・・・

”第2層生活支援コーディネーター”から顔見知りのボランティアさんへ声をかけてみることに！

9月:ふくろう広報検討会で  
ごみ出し支援の担い手(しくみづくり)  
意見交換

9月

- 本人宅現地調査

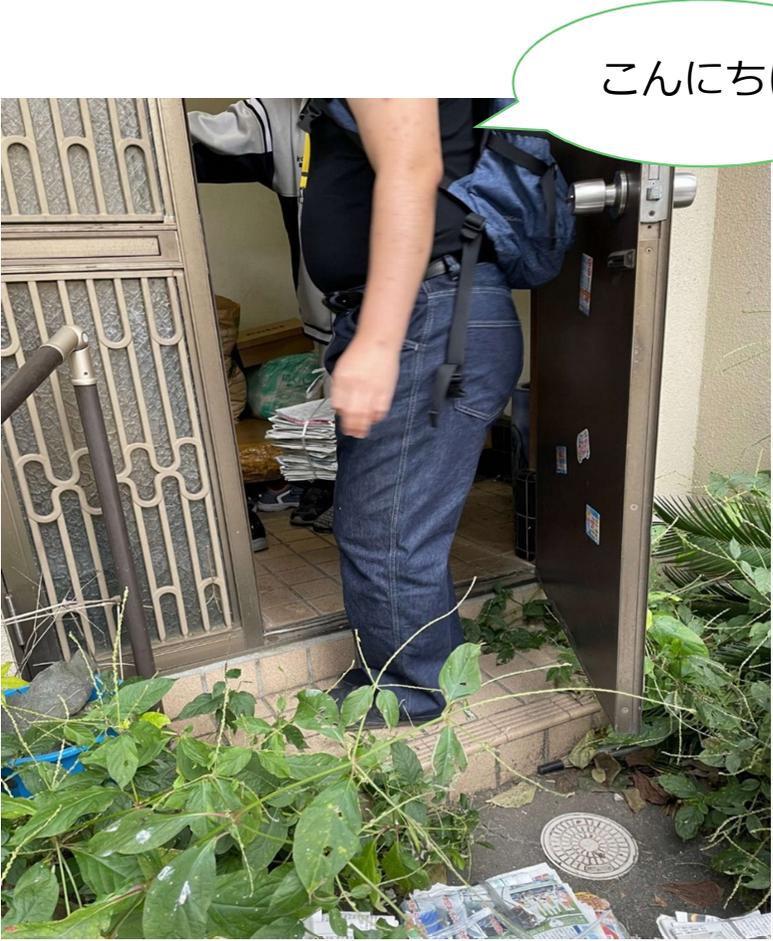
10月

- ごみ出し支援説明
- 本人とボランティアの意思確認
- ボランティアとの顔合わせ

11月

- ごみ出し支援実施

# 全体としての取り組み【ふくろう圏域】～ごみ出し支援実施～



・11月5日(土曜)の7:30  
本人宅訪問



・資源ごみ「新聞紙」4束分を運び出し  
・本人宅～集積所まで2往復



本人より

・大変助かった。  
・またお願いしたい。  
(安心した表情)



ボランティア  
Sさんより

ボランティアに意欲



ごみが片付くまで、毎週支援  
に入ることに!

# 全体としての取り組み【ふくろう圏域】

## 地域共生社会

困っている人



ごみ出しで困っている人

- ・他にも生活課題あり
- ・誰かの**少しの手助け**で、  
住み慣れた家で生活が続けられる

地域活動の担い手



- ・「支え手」「受け手」に関わらず、多様な主体が活躍できる

活躍支援をめざす

「ふくろう広報検討会」

地域活動にかかる  
関係機関



“ボランティア側  
「伴走型支援」”

“元気あとおし事業”

# ごみ出し支援をきっかけに新たな問題発見！

## 【困りごと】



さあ、  
地域で考えよう！

## 【解決策】！



- ✓ **柿の木が伸びて手に負えない。**  
柿が落ちて片づけられず、  
ネズミの温床になっている。
- ✓ シルバー人材センターに照会、  
予約がいっぱいと断られた。
- ✓ **近隣住民からもクレーム**

“「男のサロン」”で木を切るのが得意な人がいる！

**CSW、第2層SCを中心に調整**

「こみっとプレイス」で  
ジャム？干し柿づくり？

**“柿の実”**の活用も検討中

## 検討会当初の想定

“支援を必要とする人”はすぐにみつける

“町会や民生委員などに依頼すれば”、  
すぐに対象者や担い手候補の情報が得られる

“出前ごみが入っていれば”、ごみ出し支援  
は解決している

町会の活動が活発なところは、ごみ出しに  
係る問題は地域で解決している

と  
思  
っ  
て  
い  
た  
が  
・  
・  
・



## 個別支援を通じてみえたこと

“個別性が高く”、困っている人が  
なかなかみつからない

ごみは個人情報のかたまりゆえに、  
“地域のキーパーソン”まで困っている声が  
届きにくい”

出前ごみ対象外のゴミ出しができずに困っていた。  
（“資源ごみ”）

集団回収を担っている“町会のキーパーソン”も次  
世代への継承ができずに、ギリギリの現状である  
ことがわかった。

1

### 地域基盤



2

### 地域の見守り機能を高める

ささえあい・見守りあい



3

### しくみづくり

“地域住民のボランティア”  
による活動



## 3) 今後に向けて

1

## 担い手の確保・つなぐ人

情報発信  
の工夫

- ◆ “現役世代”、“元気高齢者”をいかに取り込むか
- ◆ 課題が多い対象者を1対1で支援すると負荷あり。**グループ対応**が望ましい
- ◆ 地域の大学生との連携強化  
(学生にも有益となるしくみづくり)

第1、2層SC主催  
⇒「65歳以上の地域デビュー」  
イベント開催予定!

2

## “なぜ”ごみが出るのかという視点

## 商店街の活用

- ◆ ごみ出しは各家庭で違う
- ◆ 買ったところに戻すしくみがあれば

プラスチック  
ごみの  
資源ごみ化

- ◆ プラごみが資源ごみへ変更予定  
ごみを適切に出すことも大切。

⇒各包括の地区懇談会で  
取り組むのはどうか。

3

## 行政と地域

- ◆ 行政の施策は、どんなに手厚くしても必ずラインが引かれてしまう
- ◆ ごみの個別性を本人のニーズにフィットさせるのは**“共助の力”**

## 地域福祉の醸成

ごみに限らず、高齢者の生活を支える仕組みを行政だけでカバーしきれない。  
“地域でもっとやらなければ!”とみんなに思ってもらおうよう働きかけ続けることが大切

令和4年度 地域ケア推進会議 <全体会議>  
「コロナ禍で見えた地域課題」

過年度全体会議後の状況報告  
～地域の支え手を活用する仕組みづくり～

報告者： 三枝 誠一 (豊島区民社会福祉協議会)  
渡部 忍 (高齢者福祉課 基幹型センターグループ)

# 1) これまでの経過

## 令和元年度地域課題「地域の支え手を活用する仕組みづくり」

◆令和2年10月～豊島区民社会福祉協議会と高齢者福祉課との連絡会開始

リボンサービスの拡大

地域福祉権利擁護事業

令和2年度連絡会で挙げた3つの課題

- 1.リボンサービス活動に対する関係機関の理解差
- 2.協力会員を増やす
- 3.協力会員に活動を継続してもらう

令和3年度 全体会議で相談依頼票等  
見直した取り組みを報告。

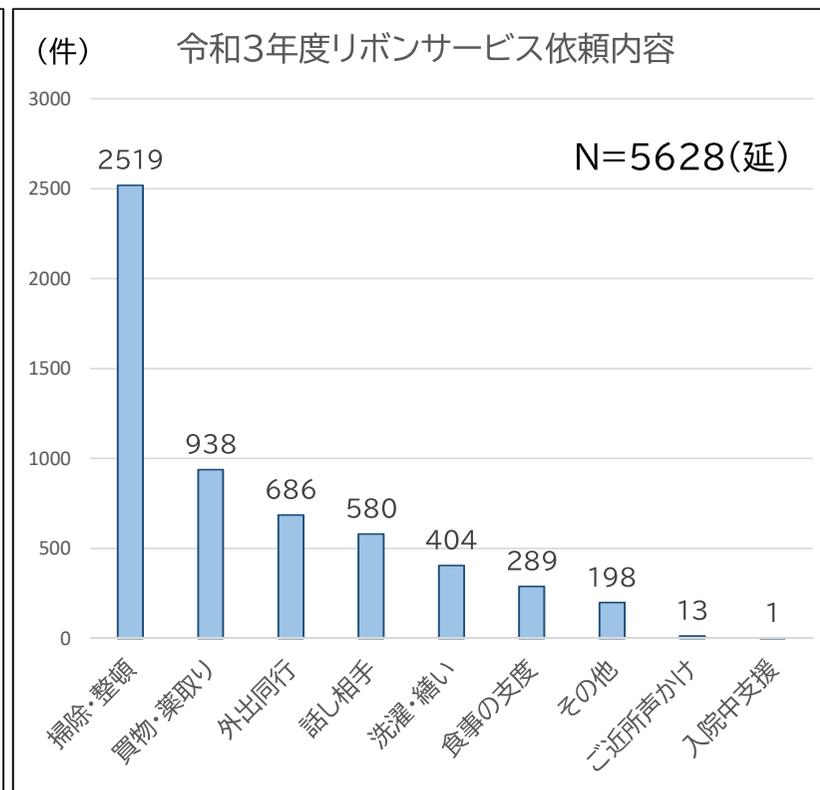
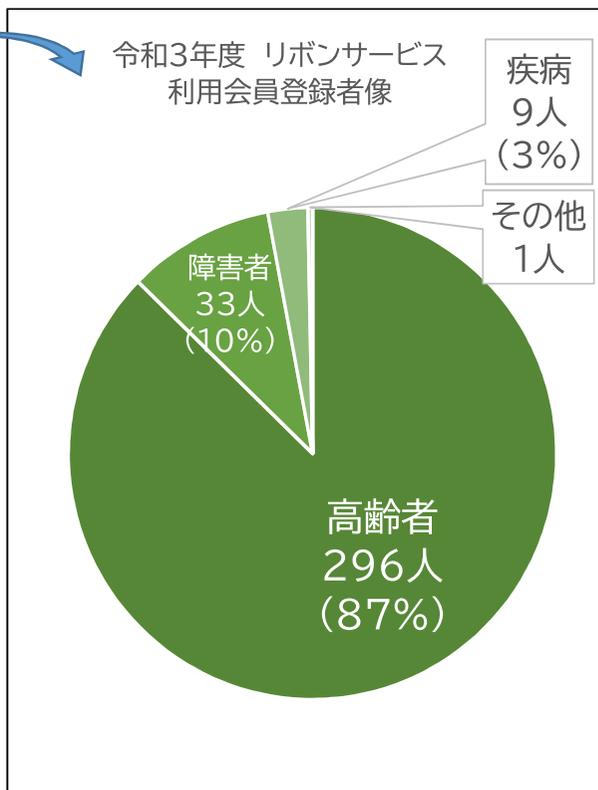
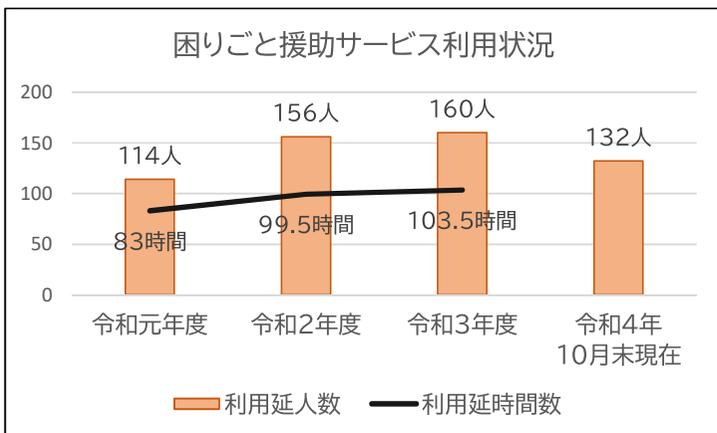
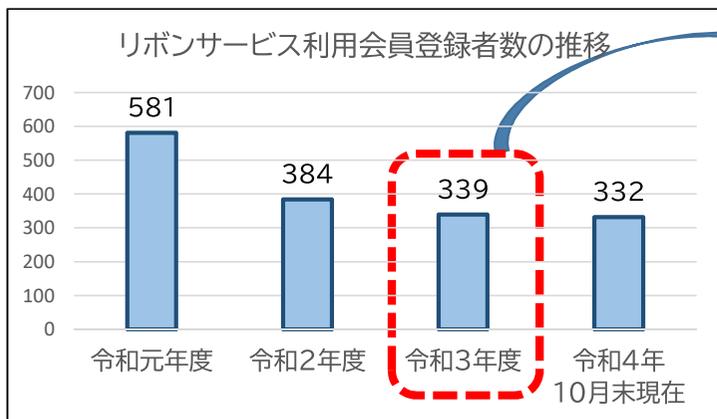
令和3年2月期センター長連絡会  
にて、リボンサービス活動への  
理解のため、意見交換会実施。

## 2) 地域の現状

リボンサービス ▶ 家事援助を中心としたサポートを地域住民の参加と協力で行う  
会員制の住民参加型の助け合い活動

困りごと援助サービス ▶ 30分以内で終了する継続性のない困りごとへの対応

### リボンサービスおよび困りごと援助サービスについて



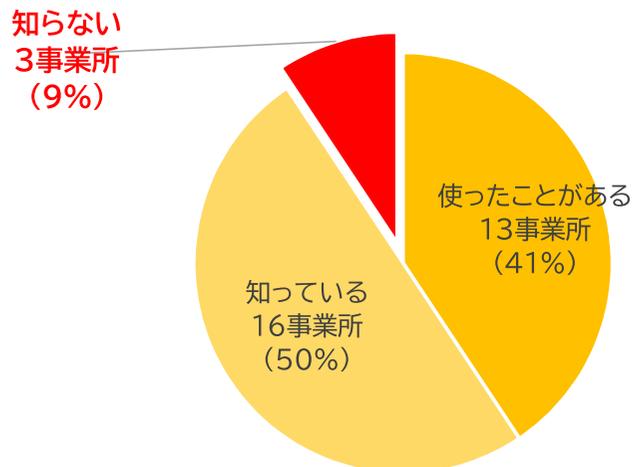
コロナ禍で利用・活動を控えていた状況から少しずつ利用相談が増えてきています。

## 2) 地域の現状

### 1. ※有償ボランティア活動への理解

※ここでの有償ボランティア活動とは、「リボンサービス」と「困りごと援助サービス」を示してアンケートを実施。

ケアマネの有償ボランティア認知度



※菊かおる園・中央・ふくろうの杜・西部包括圏域内居宅介護支援事業所 32事業所への  
ごみ出し支援に関するアンケートより

そもそも…  
1割のケアマネが有償ボランティアの存在を知らない。

#### 【課題】

- ✓ 有償ボランティアの普及啓発が十分でない
- ✓ サービスを使いたい人(勧めたい支援者)とボランティアをマッチングする社協側とで活動への理解差がある

➡令和2年度末センター長連絡会での意見交換後は、包括との相談内容のすり合わせが行いやすくなった。しかし未だ理解差はあり、包括や地域のケアマネへの周知活動や意見交換の場は必要

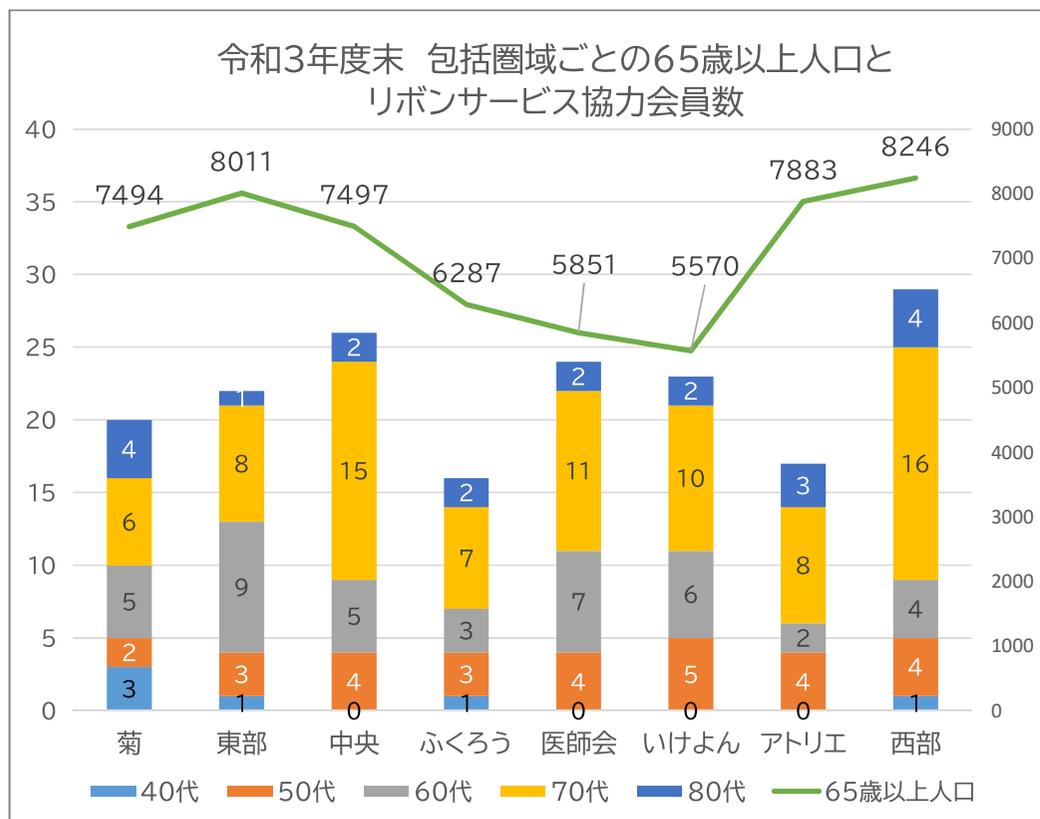
#### 【課題】

- ✓ 有償ボランティアの趣旨とサービス内容がわかりにくいという声がある

➡申込書も兼ねたチラシのようなツールが必要

## 2) 地域の現状

### 2.担い手の確保



- 協力会員の57%が70代以上。最高齢は87歳。  
長い方は30年近く活動。  
しかし最近では1、2年で辞められる方も多い。
- 登録しているものの、稼働可能な会員は100名強。  
(活動につながらない、活動を控えている会員が4割)。
- 定年年齢の延長や60歳以降の就労の必要性といった社会情勢。「稼げるのか」といった問い合わせ増  
これまでの60歳定年を想定した層へのアプローチはますます困難。
- ボランティア活動に関心を持つ学校・企業もあり。  
現役世代にいかに関わってもらえるかがカギ。



### 3) 課題分析

目指す姿 住民参加型在宅福祉サービスをより深めていくことで共生社会を推進

#### 活動への理解

(社協の理念)  
「助け合い・お互い様のボランティア活動」

活動のとらえ方の違い

(支援者側)  
サービスのひとつではないの？

#### 【課題】

#### 担い手の確保

協力会員の高齢化  
協力会員のあとおしの工夫  
効果的な広報・周知  
社会情勢の変化への対応

#### 運営

利用料・謝礼金の課題  
コーディネーターの育成

# 3) 課題に対してのアクション

## 活動への理解と利用調整をスムーズにするために

### CM等相談機関向け

#### 利用相談ツールの提供

センター長連絡会等において意見交換の上作成

#### ◆作成後のアクション

- ①事業の特徴や手続きの流れについてまとめたチラシの作成
- ②困っている状況に至った経緯の聞き取りを目的とした「利用相談依頼票」の作成

11/18中央圏域  
CM研修にて配布  
社協HPへアップ

## 協力会員を増やす(担い手の確保の)ために

### 興味関心がある区民向け

#### 家事援助スタッフ育成研修 就職相談会等でのPR

- 6/20 家事援助スタッフ育成研修 就職相談会(PR・相談ブース対応)
- 9/29 介護に関する入門的研修 マッチング事業所説明会(PR)
- 10/31 家事援助スタッフ育成研修 就職相談会(PR・相談ブース対応)
- 11/ 1 介護予防リーダー養成講座 (PR)

#### ◆PR後のリアクション

研修調整中 5名  
研修終了 1名  
登録済み 1名

#### 広報の拡大

一般区民向け

3月発行 トモニー通信・ボランティアセンターだより合併号  
(全戸配布)にて事業紹介・会員募集記事掲載

## 4) 今後において

### ◆地域における住民参加の福祉醸成

地域の中で有償・無償に関わらず地域の中での支え合いについて語り合う場(機会)が必要

中・長期目標 住民参加型在宅福祉サービスをより深めていくためのアプローチ

### ■会員継続への工夫

バラエティに富んだ人材の集まり

目的や目標も「多様」

### 協力会員の特性

「なりたい自分」「目指したい自分」「実現したいこと」  
地域に貢献したい 恩返ししたい つながりを持ちたい

■ステップアップを感じる多様な研修機会の提供

■協力会員交流会

■特技や経験を活かした活動機会の尊重

コロナ禍でこのような機会も設定できずにいた  
ので、順次再開していきますが・・・

### ◆大切な視点

- ・協力会員とコーディネーターとの日常的な対話
- ・登録後の活動への後押し

「支える人」を「しっかり支える体制」を作っていくことが大切

## 4) 今後において

中・長期目標 住民参加型在宅福祉サービスをより深めていくためのアプローチ

■協力会員募集の工夫

参加のしやすさ

活動のハードルをいかに下げるか？

■趣味や特技、好きなことなど、テーマ性を設けた協力会員の募集

例えば お話し、カラオケ、将棋、囲碁などの趣味活動、家電やPCやスマホに詳しい人、庭木いじりが好きな人、お料理や裁縫が得意な人など

■活動を体験できる機会の提供(地域の支え合いの活動体験会)

まずはちょこっと体験！

■学生や企業への働きかけ

いろいろな世代の方々の「力」が借りたい！

■運営面の課題解決に向けて

■利用料・謝礼金の仕組みのあり方について

■コーディネート等運営管理のあり方について

住民参加型在宅福祉サービスのあり方を地域の中で、住民とともに考えていくことが必要なのではないか。

地域活動の可能性について地域とともに考えていく「場」が大切